



2008年7月23日発行

NPO法人

湘南ふくしネットワークオンブズマン

「成年後見支援センターだより」

編集責任者 高山 直樹
 〒253-0044 茅ヶ崎市新栄町 13-48
 ワラシナビル5階
 電話・FAX 0467-85-6660



WISH (ウィッシュ) を大切にする

成年後見支援センター統括責任者

高山 直樹

この機関紙の名前は、WISHです。湘南ふくしネットワークオンブズマンはこのWISH(ウィッシュ)を大切にしてきました。高齢者の方や障がいのある方々の切なる想いであるWISHに耳を傾けることが、権利擁護活動の原点だと確信をしているからです。

アメリカのアリゾナ州フェニックスに、Make a Wish(メイク・ア・ウィッシュ)という世界最大のボランティア団体があります。現在は、アメリカ国内及び、プエルトリコ、グアムなどに77の拠点があり、全世界では他の27か国に支部があります。

メイク・ア・ウィッシュは1980年にアメリカで発足しました。アリゾナに住む、クリスという7歳の男子は警察官になるのが夢でした。しかし白血病にかかり、学校に行くことも難しくなりました。この少年の夢を聞いたアリゾナ警察の警察官たちは、本物そっくりの制服とヘルメットとバッジを用意し、クリスを名誉警察官に任命しました。クリス名誉警察官は規則に従って宣誓し、駐車違反の取締りもし、また、ヘリコプターに乗って空からの監視もしました。

この5日後、クリスは亡くなりました。警察では、名誉警察官のための葬儀を執り行いました。ほんの短い間でしたがクリスの夢はかなったのです。クリスの夢の実現に関わった人々は、他にも、大きな夢を持ちながら、難病のため夢をかなえることができない子どもたちがいるに違いないと考えました。こうして設立されたのが、メイク・ア・ウィッシュ基金なのです。

日本にも支部があります。メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンは1993年に「遊園地に行きたい」という夢をかなえたことを第1歩として、その後「野生のイルカと泳ぎたい」「ウルトラマンプレートと一緒に闘いたい」「世界一大きいヘラクレスオオカブトムシに触りたい」「サンタクロースと遊びたい」等诸多くのすばらしい夢をかなえることを支援しています。テレビで放映され印象に残っているのは、「江ノ電の運転士になりたい」「北島三郎と一緒に与作を歌いたい」ということがかなえられたことです。

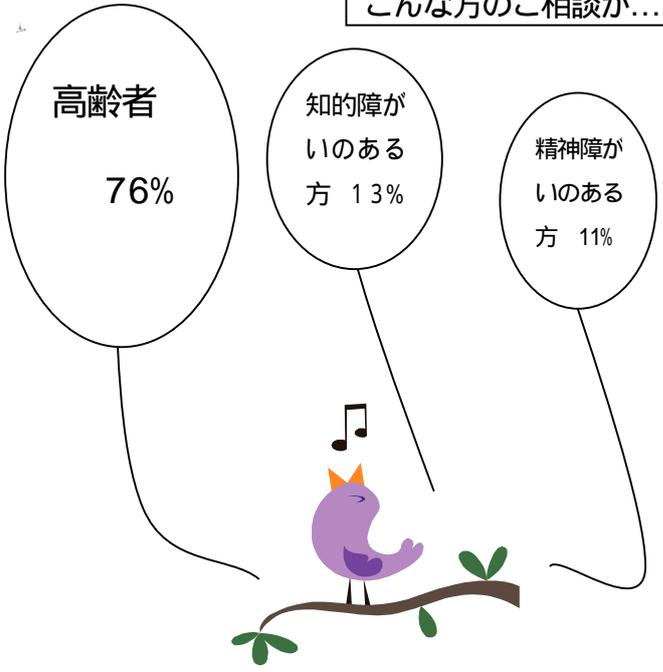
メイク・ア・ウィッシュの活動と私たちの成年後見支援の活動は、子どもと大人の違いはありますが、原点は同じといえます。子どもや大人の夢をかなえて「あげる」のではなく、夢をかなえるのに必要な、さまざまな手配や配慮をしてそのお手伝いをすることです。成年後見支援センターは、まさにメイク・ア・ウィッシュの大人版と言ってもよいでしょう。かけがえの無い一人ひとりのために、本人とその家族、関係者、地域住民が力を合わせ、wishを言える関係、聴ける関係そして実現できる社会を茅ヶ崎から発信します。

(メイク・ア・ウィッシュ・ジャパンのホームページから一部引用)

成年後見支援センター報告

こんな方のご相談が...

4月～6月	
相談件数(来所)	64回(46名)
(電話)	27回
自宅・病院訪問	4回
同行	3回
地域包括支援センターとの連携	17回
関係機関との連携	13回
個別ケースカンファレンス	2回
出前ミニ講座	1回
支援ネットワーク連絡協議会	1回
法人の後見委員会開催	3回



相談してみました

2年前に妻に先立たれ、近くに友人もなく、これからどうしたものかと途方にきて相談に行きました。ゆっくり話を聞いてくれて、任意後見制度のほかに茅ヶ崎市の福祉サービスの情報をもらって少し元気になりました。(70歳男性)

通所施設に通っていますが、両親の世話にならず、自分でいろいろなサービスを決めたいと思います。そのお手伝いをしてくれる人が必要なので相談しました。お話を聞いたら、この制度は私の生活を守ってくれるということがわかりました。(30歳女性)



～自分らしく生きる～

「地域包括支援センターにおける権利擁護実践」

日時：2008年8月30日(土)
14:00～16:30
場所：茅ヶ崎市民文化会館 大会議室
主催：特定非営利活動法人
湘南ふくしネットワークオンブズマン

成年後見支援センター

詳しくは同封チラシで！

特定非営利活動法人
湘南ふくしネットワークオンブズマン
成年後見支援センター
住所：茅ヶ崎市新栄町13-48
ワラシナビル 5階
電話・FAX：0467-85-6660
月・水・金の10:00～17:00
(祝祭日はお休み)
お気軽にお電話ください！

